

日本における「トルコ音楽」受容の一側面について

音楽科教育が伝える「トルコ行進曲」

岡崎美夏*・斎藤 完

Reception of “Turkish Music” in Japan

OKAZAKI Mika, SAITO Mitsuru

(Received September 27, 2013)

1. はじめに

本稿は日本における「トルコ音楽」の受容に関する一側面を、「トルコ行進曲」の伝えられ方を分析することによって明らかにしようとするものである。

「トルコ行進曲」に着目したのは、おそらくこの音楽が日本において最も知名度の高い、「トルコ」という語を冠した音楽であろうと推察されるからである。検索語を「トルコ」「音楽」として過去10年分（2003年1月1日～2012年12月31日）の朝日新聞の記事を検索すると、123件中49件が「トルコ行進曲」に関する記事であったことはこの推察に妥当性を与えていると言えよう¹。

「トルコ行進曲」が伝えられる場として、本稿が注目するのは学校現場である。後述するように、多くの人々は音楽科教育でこの音楽に接する機会を有しており、学校教育での伝えられ方が「トルコ行進曲」観の形成に多大な影響を与えていると考えられるからである。分析の対象とするのは、音楽科教育現場の声の反映として活用されることが多い雑誌『教育音楽』の小学版である（岡崎・斎藤 2011）。

本稿の構成と執筆分担は次のとおり。

1. はじめに（斎藤）
2. 概念の検討（斎藤）
3. 記事の傾向分析（岡崎）
4. 「トルコ音楽」への言及に関する考察（斎藤）
5. 引用文献ならびに付録（岡崎）

2. 概念の検討

以下、「トルコ音楽」の受容を見るに先立ち、「トルコ音楽」と「トルコ行進曲」についての概念を検討したい。

現在、「トルコ音楽」（＝トルコに固有の音楽と認識されている音楽）は、トルコ共和国成立（1923年）以前にオスマン宮廷で培われた芸術音楽と、同時代に存在した芸術音楽以外の音楽

* 山口学芸大学

¹ 『聞蔵IIビジュアル 朝日新聞記事データベース』にて、検索対象を「分類：音楽」として調査した。

からなると考えられており、後者は民俗音楽と称されている。

しかしながら、多民族国家であるオスマン帝国がトルコ人国家であることを自認したことはなかったことから明らかなように、オスマン宮廷に関係する音楽が、オスマン朝時代にトルコの（トルコ人の）音楽と認識されていたことはなかったと考えるのが妥当である。担い手の多くもトルコ系以外の人々（ギリシア人、アルメニア人、ユダヤ人など）が多く、この点からもトルコ音楽とはみなされていなかったであろう。トルコ共和国の黎明期においては、反オスマンが国是であったことから、その宮廷音楽はトルコ的ではなく、ビザンツ・アラブ・ペルシア的であるとさえ考えられていた。

オスマン宮廷音楽が「トルコ芸術音楽 Türk Sanat Müziği」と読み替えられるようになったのは、アレルやエズギーに代表される一部の音楽学者や、同時代に活躍していた音楽家、そして市井の愛好家の尽力による。一部はポピュラー音楽化し、一部は西洋音楽的要素を取り入れながらも、トルコ芸術音楽は広く一般に定着するようになる。オスマン的なものが現実的脅威ではなくなるにつれて、公的な支援を受けるようになり、1970年代末からは国立音楽院での教授が開始されたり、国立音楽団が結成されたりするなど、共和国政府が実質的にこの音楽をトルコ文化として公認するに至った。

一方の「トルコ民俗音楽 Türk Halk Müziği」はトルコ共和国成立以前から、トルコ民族主義を標榜する人々によってトルコ固有の音楽とみなされていた。民俗音楽はトルコ人をトルコ人たらしめる根拠の一つとされ、トルコ人を繋ぐ文化的紐帯の一端を担わされたのである。共和国政府もその路線を継承し、各地に伝承されている音楽（主に歌）を収集して楽譜出版したり、国営放送でその普及を図ったりと、「トルコ民俗音楽」に積極的に関わった。

しかしながら、収集された歌にはトルコ語以外（クルド語やギリシア語やアルメニア語など）の歌詞による、元来「トルコ音楽」とはみなされにくい歌が多く含まれていた。これらの歌詞はトルコ語に書き換えられており、実体としての「トルコ民俗音楽」は意図的に創出されていたという側面をもっている。そもそも「トルコ民俗音楽」という名称、ならびに概念は民族主義を多分に反映した近代の産物であり、この名称が定着する以前はテュルキュ türkü、ゼイベック zeybek、ハライ halay などの個別名称（音楽的特徴や詞章の形式などに基づく様式に対する名称）で呼ばれるのが通例で、それらを包括する名称・概念は存在しなかった。

すなわち、以上の「トルコ芸術音楽」と「トルコ民俗音楽」からなる「トルコ音楽」は、文化の当事者に即して言えば近現代の産物なのである。

その一方で、西洋のまなざしのもとでは、オスマン帝国はトルコ人による帝国であった。オスマン帝国が軍事的脅威であったころ、オスマン軍は「野蛮なトルコ人」による軍隊として恐れられていた。軍の多民族的な性格は顧慮されず「トルコ人」だったのである。帝国は恐怖の対象となっていた一方で、エキゾチズム溢れる憧憬の対象でもあった。16～18世紀にはオスマン文化がヨーロッパ（とくに西ヨーロッパ）で流行し、音楽や絵画や建築や服飾などに影響を与えたのだが、この現象はテュルクリ Turquerie、すなわち「トルコ趣味」と称された。音楽も同様で、たとえば1734年にヨーロッパに向けて著された『オスマン帝国の勃興と衰退』²では「音階と歌詞の繊細さからいって、トルコ音楽は、ヨーロッパのいかなる音楽よりも完璧に

² デイミトリエ・カンテミル（1673年－1723年）による著作。オスマン帝国領モルダヴィアの総督コンスタンティン・カンテミルの子で、通算21年におよびイスタンブルに滞在。現在トルコではカンテミルオウルと称されている。『オスマン帝国の勃興と衰退』はヨーロッパに紹介された最初の体系的なオスマン帝国に関する歴史書である。

近いものである（ベハール 1990、下線筆者）」とオスマン宮廷音楽が紹介されているのだが、これも西洋のまなざしの現われにはかならない。

「トルコ行進曲 *marcia alla turca*」あるいは「トルコ風 *alla turca*」という楽想を表す名称も以上の西洋的まなざしの反映である。ヨーロッパの作曲家たちが得た着想の源はオスマン軍の軍楽・メフテル *mehter* であり、繰り返しになるが、「トルコ軍」の音楽ではないのである。付言すれば、オスマン軍の軍楽隊（メフテルハーネ *mehterhane*）は宮廷の親衛隊・イエニチェリ *yeniçeri* により組織されていたのだが、その構成員はトルコ系以外の出身者が多数を占めていた。

3. 記事の傾向の分析

小学校で教材となっている「トルコ行進曲」はベートーヴェン作（《アテネの廃墟》op. 113 [1811] の第四曲）のものが圧倒的に多い。昭和33年度改訂版から平成元年度改訂版において、第22学年の鑑賞教材に採用されているからである。昭和43年度改訂版からは「共通教材」として扱われるようにもなった。その後、平成10年度改訂版より鑑賞領域では「共通教材」は示されなくなっているが、長い間「共通教材」として指定されていたこともあり、小学校の鑑賞教材として定着しているのが現状のようである。また、数のうえでは少ないが、W. A. モーツァルト作品（《鍵盤ソナタ イ長調 K331》の第三楽章）に関する言及もあり、本稿ではこれらも分析の対象としている。

1946年第1巻第1号から1957年第12巻第3号の『教育音楽』、1957年第12巻第4号から2012年第67巻6号の『教育音楽 小学版』を調査したところ、「トルコ行進曲」に関する記事は244件みられた。

これらの記事を、A 実践、B 理論、C トルコへの言及、D その他の4つの側面から分類した。それぞれ、A は実践事例や実践構想、B は楽曲分析や解説など音楽科授業以外の記事、C はトルコへの関連が示されているもの、D は書評やオーディオ紹介などで曲名のみ登場していたり、以上の項目に当てはまらなかった記事を分類した（A、B、D は独立しているが、C は重複している記事もある）。なお、記事番号は本稿末付録の表4に対応しており、年・巻号・記事名・ページ数はそこに記載されている。

表1 記事の分類

分類		記事番号
A 実践	a 鑑賞	19, 21, 24, 27, 29, 35, 40, 47, 49, 51, 61, 65, 69, 70, 76, 79, 83, 84, 89, 90, 97, 98, 99, 100, 107, 108, 110, 111, 119, 120, 121, 125, 127, 132, 133, 139, 142, 148, 153, 159, 165, 167, 170, 171, 172, 176, 182, 186, 190, 193, 199, 200, 201, 215, 216, 218, 219, 222, 224, 225, 227, 229, 234, 235, 236, 237, 238, 240, 241, 242
	※曲名のみ	1, 4, 6, 10, 13, 14, 22, 33, 34, 39, 44, 45, 46, 60, 62, 68, 78, 82, 87, 94, 95, 101, 102, 104, 105, 115, 122, 124, 131, 135, 137, 138, 154, 160, 163, 169, 183, 184, 185, 191, 192, 202, 203, 204, 206, 207, 209, 210, 212, 213, 214, 217
	b 鑑賞以外	15, 20, 56, 57, 66, 81, 86, 109, 114, 123, 129, 151, 205, 208, 230, 232, 243, 244
B 理論		2, 3, 5, 9, 16, 36, 72, 149
C トルコへの言及		2, 5, 9, 47, 69, 76, 119, 121, 127, 149, 168, 171, 175, 176, 179, 193, 222, 227, 228, 242
D その他		7, 8, 11, 12, 17, 18, 23, 25, 26, 28, 30, 31, 32, 37, 38, 41, 42, 48, 50, 52, 53, 54, 55, 58, 59, 63, 64, 66, 67, 71, 73, 74, 75, 77, 80, 85, 88, 91, 92, 93, 96, 103, 106, 112, 113, 116, 117, 118, 126, 128, 130, 134, 140, 141, 143, 144, 145, 146, 147, 150, 152, 155, 156, 157, 158, 161, 162, 164, 166, 173, 174, 177, 178, 180, 181, 187, 188, 189, 194, 195, 196, 197, 198, 211, 220, 223, 226, 231, 233, 239

それぞれ件数は、A140件 (a122、b 18)、B 8件、C 20件、D 90件であった。実践の中でも鑑賞にまつわる記事が圧倒的に多いが、それ以外のものも少量ではあるがみられた。トルコに言及している記事は244件中20件と少ない。では、それぞれ内容をみていきたい。

A 実践

a 鑑賞

122件の内、年間指導計画や指導案などに曲名のみ記載されている記事を除いた70件の内容を分類すると以下の通りであった。

表2 鑑賞領域における記事の分類

	記事番号
①拍子	61, 65, 69, 76, 79, 97, 111, 120, 121, 122, 132, 199, 215, 216, 229, 234, 236, 237, 238
②リズム	89, 99, 108, 111, 121, 132, 142, 172, 176, 193, 200, 215, 218, 227, 236
③強弱	69, 79, 89, 98, 100, 111, 120, 121, 132, 133, 153, 159, 170, 171, 176, 193, 215, 227, 229, 235, 238
④旋律	47, 49, 61, 65, 69, 76, 84, 89, 98, 99, 111, 121, 125, 170, 171, 176, 193, 199, 200, 215, 218, 238
⑤音色	19, 61, 65, 70, 76, 84, 110, 120, 132, 170, 176, 186, 193, 199, 218, 219, 224, 240, 241
⑥構造 (形式)	35, 79, 111, 121, 125, 127, 132, 170, 176, 215, 218
⑦その他	21, 24, 29, 40, 107, 119, 139, 182
⑧表現領域に関する活動	69, 76, 83, 84, 86, 97, 98, 108, 111, 114, 121, 127, 132, 133, 142, 170, 171, 172, 176, 190, 193, 199, 200, 201, 215, 216, 218, 219, 225, 229, 234, 235, 236, 237, 238
⑨教材観	90, 148

① 拍子

拍子に関する記事は、70件中19件であった。その内容としては、3拍子との違いに着目したもの (61、237)、拍子を取りながら聴かせるというもの (65、69、76、79、121)、「拍子感を養う」という記述がみられたもの (97、120、122、132、199、215、216)、2拍子を感じさせるというもの (76、111)、「拍の流れを感じて」という記述がみられたもの (229、234、238)、拍の強弱に視点をおいて聴かせるというもの (236) に分けられる。記事237では、2拍子と3拍子の違いを学ばせるために、「トルコ行進曲」(ベートーベン作曲)と《メヌエット》(ヘンデル作曲)の比較聴取を行うという具体例が記載されているが、その他の記事については授業のねらいや目標などで記述された一文であった。「力強い2拍子」は「トルコ風」である特徴の一つだが、関連させた事例はなく、あくまで西洋音楽として扱われているようだ。

② リズム

リズムに関する記事は、70件中15記事であった。特徴あるリズムを感受させるという記述があるもの (89、99、236) や、リズムに親しむという記述があるもの (218)、譜例を示したうえで「全曲にこのリズムが流れ、印象的な感じを強く与えている」という記述がみられたもの (111、121) などがあつた。また、曲に合わせてリズム打ちをさせるもの (176、200、215)、マーチのリズムを身体表現させるという例 (108) や、いろいろな楽器でリズム合奏させる (132)、リズム遊びをしながらリズム感を高める (142)、リズム伴奏に合わせて歌詞をつけた「トルコ行進曲」を歌う (172) など、方法は様々に工夫されている。これらの例は西洋音楽として扱

われているが、2件ほどトルコに関連した記述や事例がみられた。

③ 強弱

強弱に関する記事は、21件である。その内容としては、弱—強—弱のパトロール形式に関するものが大半を占めている。パトロール形式についての説明をしているもの(121、132、159、176)をはじめ、弱—強—弱について話し合う(69、98)、弱—強—弱を感じさせ情景を想像する(79、111、193、238、227)、パトロール形式のおもしろさを味わわせる(89)、パトロール形式に気づかせる(100、215、170)などの指導内容を示す記述がみられた。その他には、強弱の変化を感覚的につかませる(120)、音楽の強弱感を身体動作を通して身につけさせる(133)、強弱の変化に関心をもたせ、その効果を理解させる(153)、強弱や拍の流れの違いによって、曲の感じが変わることに気づく(229)などがある。また、記事235では、強弱の変化に主眼をおき、リズム打ちの活動を通して曲のヤマを感じ取らせている。この項目に関して、トルコへの言及がみられた記事は皆無であった。

④ 旋律

旋律に関する記事は、22件であった。旋律の実践事例の中で一番多いのは、旋律を口ずさむ(49、61、69、76、84、98、121、171、176、200、238)という活動であり、「主なふし」や「それ以外のふし」を歌わせることで注意を向けさせている。その他には、旋律を覚えさせる(47、111)、特徴ある主題の旋律に親しませる(89、99、199)、旋律の反復に気づかせる(65、125、170)、旋律に合わせて身体反応やリズム打ちをする(200、218)などの記述がみられた。また、二つのふしに合わせて線を書き分ける(125)や、色の違うカードをふしに合わせて並べながら聴く(215)という活動もみられた。これらの指導は西洋音楽的なものであるが、記事193ではトルコへの言及がある。

⑤ 音色

音色に関する記事は19件であった。ピアノと管弦楽の演奏を比較聴取し、楽器の音色の違いや演奏形態の違いに注意を向けさせるもの(19、61、84、110、120、132、186、218、219)が大半を占めている。また、純粹に(比較聴取なしで)楽器の音色や演奏形態に関心をもたせる(65、76、193、199、241)という記述もみられた。さらに、ピアノ独奏を聴かせて鍵盤楽器の音色に親しませる(70、170、176、240)、金管楽器の演奏を聴かせ、金管楽器の音色に親しませる(224)といったように、特定の楽器の音色に注目しているものもあった。いずれも、トルコへの言及は皆無であった。

⑥ 構造(形式)

構造に関する記事は11件であった。曲の構造を理解させる方法として、旋律のくり返しを線図で描き表すことで Rond 形式を理解させるというもの(125)、身体表現をしながら曲の構造を理解させる(127、218)、二つのふしに合わせて2色のカードを並べることで曲の構造を理解させる(215)など、理解を深めるための工夫がみられた。また、「曲の構成を聴き取る、しくみを理解させる」(79、170)や、「A B A B A Coda」と記しているもの(111、121、132、176)など一程度に関連記述がみられたものもあった。その他には、形式を識別させる学習には反復の多い「トルコ行進曲」が適しているという記述(35)もみられた。この項目に関しても、トルコへの言及はなく、西洋音楽としての扱いである。

⑦ その他

ここでは、鑑賞実践における上記の項目以外の記事を分類した。内容としては、作曲家(ベートーベン、モーツァルト)について学ぶことを主目的としている事例の中で「トルコ行進曲」

が登場しているもの (21、24、40、119、182) や、作り話に合わせて鑑賞するもの (29)、さし絵をみたり、場面を自由に想像したりして楽しく聴く (107)、明るく軽快なリズムをもつ行進曲に親しませる (139) というものがある。

⑧ 表現領域に関する活動

ここでは、鑑賞の理解を深めるために身体表現やリズム打ちなどを取り入れている実践事例を分類した。身体表現の事例が多く27件である。その内容としては、身体反応を通して音楽的感覚を伸ばすなどの記述があるもの (69、133、170、176、216、236)、音楽に合わせて身体表現をさせる (工夫させる) (76、84、97、98、108、229、234) などにはじまり、具体的な例としては音楽に合わせて行進させる (121、190、83)、AとBのふしで身体表現を変える (127、200、201、218、238)、指行進をさせる (190、215)、指先を使ったり腕をふる (114)、楽器演奏の真似をする (219)、曲に合わせて指揮をする (225、237) などがあった。いずれもトルコに関連する記述はみられなかった。

次に、リズム打ちの事例は7件であった。その内容としてはリズム打ちを通して音楽的感覚を伸ばすなどの記述があるもの (216)、音楽に合わせてリズム打ちやリズム奏をする (86、111、132、193、200、235)、リズム唱やリズム打ちでリズム問答をさせる (86、142) を挙げることができる。記事235では、強弱から曲のヤマを感じ取り、指一本から手のひらと打ち方を工夫したり、リズム打ちをする人数に変化をつけたりすることで曲のヤマを表現するという活動を行っている。これらの実践事例は西洋音楽としての扱いであったが、記事193は前述している通り、トルコに言及した指導を展開している。

その他に、記事172では曲に合わせて行進、歌詞をつけて歌う、リズム伴奏にことばをのせてことば遊びをするなど、様々に展開しているものもあった。

⑨ 教材観

ここでは、「トルコ行進曲」の鑑賞教材としての評価に関する記述がみられたものを分類した。記事90では、井沼 (1960) が「ベートーベンの《トルコマーチ》は旋律に盛り上がりがないため、児童にはあまり興味がわかない (p.27)」と記述し、記事148では宇野 (1968) がモーツァルトの「トルコ行進曲」を推薦し、「指導要領にはベートーベンのものが入っているが、音楽的に雲泥の相違があって、これはどうしてもモーツァルトにしたい。ベートーベンのほまったくの駄作であって、長い鑑賞に堪え得ないがモーツァルトのは珠玉の名品であり、もちろんピアノの上手な先生だったら、自分で弾いて聴かせるのがもっとも効果的だと思う (p.24)」と述べている。このように共通教材であるベートーベンの「トルコ行進曲」に対する否定的な記述がみられた。同一記事では、これ以外にもモーツァルトの「トルコ行進曲」を推薦する記述がある。一方で、トルコ音楽に関連した記述はみられなかった。

b 鑑賞以外

鑑賞以外の実践に関する記事は18件であった。分類すると以下の通りである。

表3 鑑賞以外の領域における記事の分類

	記事番号
⑩歌唱	123, 243
⑪器楽	15, 43, 56, 57, 81, 129, 151, 205, 230, 243
⑫創作	86, 109
⑬身体表現	208, 232, 244
⑭その他	20

⑩ 歌唱

歌唱に関する記事は2件である。記事243は、モーツァルトの「トルコ行進曲」に歌詞をつけて歌い、ミュージカルを作るという事例である。記事123では、歌唱指導において適切な速度の重要性を感じ取らせるために、「トルコ行進曲」を用いている。その方法は、いろいろな速度で演奏してみせることで、速度によって音楽の感じが変わることを認識させるというものである。トルコに関する記述はみられなかった。

⑪ 器楽

器楽に関する記事は10件であった。ほとんどが、執筆者の指導におけるレパートリーの中の1曲であること(43、151)、取り組んだ曲として紹介されているもの(56、81)、音楽会で演奏した曲(57)、鍵盤ハーモニカのテスト課題曲として(230)など、曲名のみが挙げられているものであった。中には、訪問先の学校で「木琴の優れた演奏(トルコマーチ)を聴いた」と記録しているもの(15)もあった。その他には、オルガン指導に「トルコ行進曲」を用いているもの(129)や、器楽指導の際、強弱指導を感覚的に理解させるために「トルコ行進曲」を例として聴かせているというもの(205)、モーツァルトの「トルコ行進曲」を合奏付きミュージカルに編曲して取り組んでいる事例(243)などが挙げられる。やはり西洋音楽としての合奏や演奏であり、トルコに言及した事例は皆無であった。

⑫ 創作

創作に関する記事は2件であった。記事86では、低学年の創作指導を歌唱や鑑賞との関連という視点から記述している。その中で、「トルコ行進曲」に合わせて、カスタネットでリズム打ちをしたり、リズム唱やリズム楽器での即興的なリズムを表現させるという活動を展開している。記事109では、楽器を利用した創作指導について記述されている。その中で、「トルコ行進曲」の曲想に合わせて自由にリズム楽器を打つという活動を提示している。これに関しても、トルコへの言及はみられなかった。

⑬ 身体表現

身体表現に関する記事は3件であった。記事208は、身体表現のさせ方についてアドバイスをしており、名曲を取り入れて身体表現を促す方法を提案している。その名曲の例として、「トルコ行進曲」を挙げている。記事232はアウトリーチの事例で、「トルコ行進曲」の演奏時に子どもたちは足踏みをして、ピアノと共演する様子が記述されている。記事244は、リズム遊びの方法をいくつか提案している。その中で、「トルコ行進曲」に合わせた身体表現の例が紹介されている。トルコに関する記述はみられなかった。

⑭ その他

記事20では、楽曲のAに対してA'を教える際に、モーツァルトの作品や、ベートーヴェンの「トルコ行進曲」を弾いて、理解させるという記述がみられた。まさに西洋音楽の作品としての扱いであり、トルコ音楽に関する記述はみられなかった。

B 理論

ここでは、実践以外に楽曲解説などの形で「トルコ行進曲」が登場している記事を分類した。関連記事は、244件中8件である。

記事72は、CD評になっており「演奏家によってたいへんテンポが変わる(p.65)」といった記述がみられた。

音楽の仕組みなどについて記述された記事の中で、例として「トルコ行進曲」を挙げている

ものがあつた。それは、形式や終止形について説明している記事の中で (3)、反復について論じられた記事の中で (16)、転調の例として (36) 挙げられている。記事 2、5、9、149は、作曲家や楽曲についての説明文が載せられており、それぞれ「トルコ風」であることに言及している（記事 9、149では「東洋風」や「東方」といった言葉が用いられている）。

C トルコへの言及

トルコについての記述がみられた「トルコ行進曲」に関する記事は、実践以外の記事も含めて244件中20件と少なかった。そのうち、13件は楽曲についての説明文であり、7件は実践的な事例や構想などである。

言及のあり方に関しては次項（「トルコ音楽」への言及に関する考察）を参照されたい。

D その他

書評やオーディオ評を含め、上記の側面に分類できなかったものを「その他」として分類した。演奏会、発表会や合奏コンクールの演目の中に登場しているものもあつた。

4. 「トルコ音楽」への言及に関する考察

まず、全体を通して言えることは、「トルコ行進曲」は西洋音楽として伝えられており、この音楽が日本における「トルコ音楽」の受容に直接的につながるものではないということである。「トルコ行進曲」は音楽そのものに対する理解を促すよりも、これがもつ西洋音楽的要素（とくに時間的な周期性に関わる部分）を感受させるために、音楽科教育に組み込まれているときええそうである。

しかし、「トルコ音楽」へと繋がる可能性が皆無というわけではない。「トルコ行進曲」を元にして、「トルコ音楽」を類推する可能性がある。そうした場合、あえてキーワードを挙げるとすれば、「二拍子」と「強弱」になるのであろうか。いずれにしても、「トルコ行進曲」の「行進曲」に関する部分で「トルコ音楽」は推し量られることになる。

その一方でわずかではあるが、トルコに関する言及があり、オスマン朝の軍楽であるメフテルは次のように記述されている。列挙すると、「トルコ兵の行進 (2)」「トルコ人の行進 (5)」「トルコの軍楽隊 (9)」「トルコの兵隊が行進 (47)」「トルコの兵隊の行進 (65)」「トルコの兵隊さんが行進 (76)」「トルコの兵隊になったつもりで行進 (83)」「トルコの軍楽隊 (119)」「トルコの国王 (121)」「トルコ帝国の親衛軍楽隊 (127)」「トルコの兵士たち (136)」「トルコの軍隊とそれに伴う軍楽隊 (168)」「トルコ軍楽隊 (175)」「トルコの王様 (176)」「トルコの軍楽隊 (179)」「トルコの兵隊 (182)」「トルコの軍楽 (193)」「トルコの軍楽隊 (222)」などとなる（詳しくは本稿末付録の表5を参照されたい）。

このように、「オスマン」を「トルコ」と読み替えているのだが、これは西洋的な理解を無批判に取り入れた結果であろうか、あるいは共和国のトルコ民族主義を補強する文化政策を受けての記述であろうか。

じつはメフテルは宮廷と直接的な関連があるにもかかわらず、早い時期から民族主義と接点をもった音楽なのだが、その略史は以下のとおりである。

1826年：西洋式な軍楽隊が組織されるのと同時にメフテルが廃止される。

- 1914年：その起源が中央アジア（トルコ民族発祥の地）にあるとの説から民族主義者たちによって復興される。
- 1935年：前近代性を指摘されて再び廃止。
- 1952年：国立軍事博物館（イスタンブル）にメフテルハーネが組織される。
- 1968年：ベルギー公演でトルコ音楽として好評を博し、これ以降、海外公演が増加する。

こうした紆余曲折からいずれの解釈（西洋的理解の受容、あるいはトルコ民族主義）も可能だが、記述のほとんど（244件中224件）にトルコへの言及がないことを考え合わせると、西洋のまなざしによるメフテル理解を無批判に取り入れたとするのが妥当だと言えよう。

以上のように、本稿では『教育音楽 小学版』誌を手がかりにして小学校現場での「トルコ行進曲」の伝えられ方を分析した。その結果は上記のとおりであるが、今ひとつ考慮しなければならないことが、以下の記述に表明されている。

トルコ行進曲が派手なトルコの軍楽隊から出ていることは、トルコも軍楽隊も連想できない八、九歳の児童に説明しても鑑賞のたしにはならない（119）

すなわち、「トルコ行進曲」が小学2年生の鑑賞教材として使われているということに起因する「制約」である。対象学年が上がればそうした「制約」は少なくなり、伝えられ方、ならびに伝えられる内容も変わるだろう。今後は『教育音楽 中学・高校版』を頼りに同様な分析をおこないたいと考えている。

付記：本研究は科学研究費助成事業「中東・北アフリカ地域における音文化の越境と変容に関する民族音楽学的研究（基盤研究(B)）」（課題番号：24320040／研究代表者：水野信男）の成果の一部である。

引用文献

- 粟飯原善男（1998）：授業を生き生き 第3学年音楽科指導事例，教育音楽 小学版，617，92-93.
- 青木敦子（2010）：授業を生き生き 第5学年音楽科指導事例，教育音楽 小学版，757，66-67.
- 青木由之介（1956）：学級における器楽指導の展開，教育音楽，109，32-41.
- 青島広志（2001）：青風徒然草 第五十二段 歌劇に於ける異国趣味，教育音楽 小学版，652，62-63
- 秋田誠司 武田彊（1962）：第二学年の音楽指導計画，教育音楽 小学版，186，124-125.
- 井田恵子（1995）：授業レヴェルアップ！講座 創造的「鑑賞」指導のポイント 低学年編，教育音楽 小学版，582，80-81.
- 井沼正行（1960）：鑑賞教材の選択について（二），教育音楽，163，26-27.
- 井沼正行（1964）：鑑賞指導の意義，教育音楽 小学版，202，30-31.
- 井沼正行（1973）：鑑賞指導の実際 連載19，教育音楽 小学版，313，94-97.
- 今井志郎（1955）：教材解説 五月の音楽指導 小学六年，教育音楽，97，150-151.

- 今成睦夫 (1975) : 第二学年音楽科指導事例, 教育音楽 小学版, 355, 100-101.
- 井上恵理 (2011) : 全学年でできる! 楽しいリズム遊び, 教育音楽 小学版, 776, 30-35.
- 上田昭 (1968) : 特集 私の選ぶ小学校鑑賞教材 法人作曲家の声楽曲を, 教育音楽 小学版, 260, 22-23.
- 植田恵理子 (2010) : あっとおどろく わははな授業!!, 教育音楽 小学版, 758, 56-57.
- 宇野功芳 (1968) : 特集 私の選ぶ小学校鑑賞教材 純粋な音楽美 モーツァルト, 教育音楽 小学版, 260, 23-25.
- 江波戸昭 (1977) : エンサイクロペディア・切手の楽器8 グスラ・コブザ・バンドゥーラ, 教育音楽 小学版, 369, 66-67.
- 江波戸昭 (1978) : エンサイクロペディア・切手の楽器15 ズルナ, 教育音楽 小学版, 376, 80-81.
- 海老名仁平 (1952) : 小学六年 九月 音楽指導, 教育音楽, 65, 95-97.
- 岡崎美夏 斎藤完 (2011) : 音楽科教育の現場におけるピアノ伴奏に対する認識, 教育実践総合センター研究紀要, 31, 71-82.
- 岡田聡子 (2006) : 授業を生き生き 第2学年音楽科指導事例, 教育音楽 小学版, 719, 70-71.
- 岡田正樹 (1991) : QUESTION&ANSWER リズムパターンからお馴染みの曲から, 教育音楽 小学版, 533, 94-95.
- 岡田幸 (1968) : 特集 私の選ぶ小学校鑑賞教材 低学年の選曲について, 教育音楽 小学版, 260, 43-44.
- 小野作良 (1953) : 教材解説 七月の音楽指導 小学五年, 教育音楽, 75, 118-119.
- 葛西英昭 (1961) : 第二学年の音楽指導計画, 教育音楽 小学版, 175, 112-113.
- 葛西英昭 (1964) : 第二学年の音楽指導事例, 教育音楽 小学版, 210, 116-117.
- 門馬直衛 (1950) : 鑑賞の手引き モーツァルト作 イ長調ソナータとトルコ行進曲, 教育音楽, 42, 86-90.
- 川田景俊 (1965) : 第二学年の音楽指導事例, 教育音楽 小学版, 223, 124-125.
- 木田由理子 (1965) : 低学年の効果的な鑑賞指導法, 教育音楽 小学版, 219, 36-38.
- 久保田絵理奈 (2002) : 授業を生き生き 第2学年音楽科指導事例, 教育音楽 小学版, 670, 86-87.
- 熊木眞見子 (2007) : 連載 へ〜そ〜なの! 音楽のしかけ 新しい鑑賞教育のアイデア: 教育音楽 小学版, 725, 60-61.
- 熊木眞見子 中島寿 高倉弘光 (2009) : [共通事項] で鑑賞指導はどう進化する?: 教育音楽 小学版, 756, 30-33.
- 熊倉佐和子 (2009) : 授業を生き生き 第3学年音楽科指導事例, 教育音楽 小学版, 748, 70-71.
- 熊倉佐和子 (2009) : 特集◎音楽の仕組み再発見! わくわく鑑賞指導 中学年 [共通事項] を生かして音楽を聴く楽しさに出会う: 教育音楽 小学版, 756, 36-37.
- 小磯宣枝 (1998) : 授業を生き生き 第4学年音楽科指導事例, 教育音楽 小学版, 615, 92-93.
- 小柴はるみ (1975) : 民族と音楽 トルコ1, 教育音楽 小学版, 345, 80-82.
- 小島明 (1964) : 9月の学校放送, 教育音楽 小学版, 210, 94-95.

- 小島明 (1965) : 11月の学校放送, 教育音楽 小学版, 225, 42-43.
小島明 (1966) : 11月の学校放送, 教育音楽 小学版, 238, 44-45.
小島明 (1967) : 10月の学校放送, 教育音楽 小学版, 249, 46-47.
小谷輝雄 (1975) : 第二学年音楽科指導事例, 教育音楽 小学版, 347, 96-97.
小谷輝雄 (1975) : 第二学年音楽科指導事例, 教育音楽 小学版, 348, 100-101.
笹倉重男 (1964) : 創造性を生み出すために, 教育音楽 小学版, 213, 21-23.
属啓成 (1966) : 音楽と伝説 第12話 トルコ行進曲<モーツァルト・ベートーベン>, 教育音楽 小学版, 229, 66-68.
志島栄八郎 (1968) : 学校レコード・ライブラリーの理想的設計, 教育音楽 小学版, 260, 53-55.
柴田知常 (1947) : 音楽鑑賞教材解説, 教育音楽, 7, 44-46.
柴田知常 (1954) : 音楽鑑賞教室 第4回目, 教育音楽, 87, 146-149.
柴田知常 (1955) : 音楽鑑賞教室 第16回, 教育音楽, 100, 146-149.
柴田知常 (1956) : 鑑賞教室 ベートーベンの話, 教育音楽, 112, 66-67.
島影亨 (1953) : 教材解説 三月の音楽指導 中学一年, 教育音楽, 71, 105-107.
清水篤子 (1994) : 授業を生き生き 第2学年音楽科指導事例, 教育音楽 小学版, 569, 94-95.
下總皖一 (1947) : 作曲講座3, 教育音楽, 9, 35-38.
下總皖一 (1952) : 楽式論並に楽曲解剖 (3) 一反復と変化一, 教育音楽, 60, 48-52.
下總皖一 (1955) : 作曲法講話, 教育音楽, 98, 116-119.
白井良昭 (2001) : 授業を生き生き 第2学年音楽科指導事例, 教育音楽 小学版, 651, 90-91.
菅原克己 (1981) : トルコ風行進曲の特徴(●リズムから「トルコ行進曲」にアプローチ, 教育音楽 小学版, 420, 不明.
杉山静夫 (1959) : 低学年の必修鑑賞曲の取り扱い, 教育音楽 小学版, 141, 28-29.
杉山静夫 (1960) : 性格と目標を意識すること, 教育音楽 小学版, 158, 22-23.
鈴木健之 (1960) : レコードを中心とした鑑賞指導のあり方 学習指導案, 教育音楽 小学版, 156, 72.
竹内功 (1960) : 今月の学校放送 NHK, 教育音楽 小学版, 162, 58-59.
竹内功 (1961) : 今月の学校放送 NHK, 教育音楽 小学版, 174, 58-59.
竹内功 (1962) : 今月の学校放送 NHK, 教育音楽 小学版, 178, 58-59.
竹内功 (1962) : 今月の学校放送 NHK, 教育音楽 小学版, 179, 58-59.
竹内功 (1963) : 6月の学校放送, 教育音楽 小学版, 194, 100-101.
田中一雄 (1969) : 新指導要領による鑑賞指導への構想, 教育音楽 小学版, 369, 85-87.
千種恒男 (1952) : 学習問題のとらえ方, 教育音楽, 66, 34-38.
千葉弘子 (1995) : 授業を生き生き 第2学年音楽科指導事例, 教育音楽 小学版, 583, 98-99.
千代延尚 (1969) : 伊沢富美子先生の器楽指導, 教育音楽 小学版, 368, 41-47.
千代延尚 (1977) : 音の絵本16 トルコ行進曲 ベートーベン作曲, 教育音楽 小学版, 370, 92-93.
中島静江 (1987) : 第2学年音楽科授業研究, 教育音楽 小学版, 492, 104-107.

- 中島静江 (1988) : 第2学年音楽科授業研究, 教育音楽 小学版, 493, 100-102.
- 中島静江 (1988) : 第2学年音楽科授業研究, 教育音楽 小学版, 494, 102-105.
- 中野義見 (1950) : 鑑賞レコード解説 トルコ行進曲 ベートーベン作曲, 教育音楽, 35, 97-100.
- 中野義見 (1959) : 特集 文部省共通教材の解説 小学校鑑賞の部, 教育音楽 小学版, 143, 61-65.
- 中野義見 (1959) : 音楽教育診断 鑑賞 こんな時にはこんな手当を, 教育音楽 小学版, 147, 107.
- 中野義見 (1960) : 鑑賞講座 8, 教育音楽 小学版, 153, 93-95.
- 中村茂彦 (1960) : わが校の全校合奏, 教育音楽 小学版, 155, 66-69.
- 中山義郎 (2002) : 鍵盤ハーモニカ教材考, 教育音楽 小学版, 672, 48-50.
- 西川菊治 (1989) : 連載 合奏をまとめる 6 音楽会に出場するための15のポイント実践編その1, 505, 60-61.
- 西島万雄 (1959) : 第二学年の音楽指導資料, 教育音楽 小学版, 146, 112-113.
- 西村美紀子 (2009) : リレー連載 授業にそのまま活用! 学習プリント, 教育音楽 小学版, 746, 50-51.
- 平沢元 (1979) : 聴く耳を育てる—低学年の鑑賞, 教育音楽 小学版, 394, 105.
- 福原真弓 小林なお 米沢純夫 伊藤進 須藤克昭 山田宏 間島春夫 (1965) : 昭和39年度 東京都教育研究員研究報告 高学年の鑑賞指導, 教育音楽 小学版, 217, 18-21.
- 藤井典明 (1968) : 特集 私の選ぶ小学校鑑賞教材 日本の古今の音楽から, 教育音楽 小学版, 260, 41-43.
- ベハール、ジェム (1994) : トルコ音楽にみる伝統と近代, 東海大学出版会.
- 松本民之助 (1963) : 音楽の基本要素と統合学習, 教育音楽 小学版, 190, 18-25.
- 松本恒敏 (1958) : 実践記録 器楽指導の歩み, 教育音楽 小学版, 134, 88-91.
- 宮崎敦子 (1981) : 特集 聴く意欲を育てる 第二学年持続力・集中力を養う, 教育音楽 小学版, 413, 41-44.
- 村田武雄 中野義見 杉山静夫 (1959) : 座談会 鑑賞教材用レコードをめぐって, 教育音楽 小学版, 150, 62-71.
- 村田武雄 (1964) : 小学校における鑑賞教育の方法論 (3), 教育音楽 小学版, 206, 88-91.
- 村田武雄 (1964) : 小学校における鑑賞教育の方法論 (6), 教育音楽 小学版, 212, 88-91.
- 村田武雄 (1978) : 楽しく自由で自然に 7 一小学校音楽鑑賞教育の実践一, 教育音楽 小学版, 382, 89-92.
- 八木正一 (1993) : おもしろ音楽授業ゼミナール12ソフトで変わる授業⑤, 教育音楽 小学版, 564, 不明.
- 柳田秀武 (1963) : 第二学年の音楽指導事例, 教育音楽 小学版, 198, 120-121.
- 山本榮 (1952) : 岐阜・京都・奈良・名古屋めぐり, 教育音楽, 59, 6-69.
- 山本美砂子 (2009) : 授業を生き生き 第2学年音楽科指導事例, 教育音楽 小学版, 747, 72-73.
- 渡辺和 (1966) : 授業レヴェルアップ! 講座 楽しく聴こう 鑑賞授業を面白くする雑学BOX, 教育音楽 小学版, 594, 78-79.
- 渡辺久遠 (1965) : やさしい器楽編曲講座 “楽器を生かそう” オルガン編・その1, 教育音楽

小学版, 220, 98-101.

渡辺南海雄 (1960) : 短調、六拍子の曲がぴったりしない, 教育音楽 小学版, 155, 28-30.

和田三里 (1958) : “読者の実践記録” 応募入選論文発表! 四つの足場に立って, 教育音楽 小学版, 132, 81-85.

若松盛治 河村翠 小松重雄 野田信一 遠藤定彦 (1963) : 昭和37年東京都教育研究員研究報告 楽器を利用した創作指導, 教育音楽 小学版, 193, 25-27.

巻頭グラビア (1960) : 江戸川区立小岩小学校研究発表会, 教育音楽 小学版, 156, 不明

付録

表4 記事一覧

記事番号	年	巻号	記事名	ページ
1	1947	2 (3)	鑑賞教育について	26-30
2	1947	2 (6)	音楽鑑賞教材解説	44-46
3	1947	2 (8)	作曲講座3	35-38
4	1950	5 (1)	音楽鑑賞の實踐	61-63
5	1950	5 (2)	鑑賞レコード解説 トルコ行進曲 ベートーベン作曲	97-100
6	1950	5 (3)	管弦楽をきくために	78-81
7	1950	5 (臨)	音楽史の指導	94-97
8	1950	5 (8)	レコードをどう使うか	50-54
9	1950	5 (9)	鑑賞の手引き モーツァルト作 イ長調ソナータとトルコ行進曲	86-90
10	1950	5 (9)	教材解説アルファベット 中学二年	136-137
11	1951	6 (2)	全国音楽教育者大会研究発表 学校教師のピアノ技術	54-56
12	1951	6 (4)	小學三年 一學期の指導計畫	114-120
13	1951	6 (5)	小學六年五月の音楽指導	119-121
14	1952	7 (2)	私の推薦する名曲・名盤	50-53
15	1952	7 (3)	岐阜・京都・奈良・名古屋めぐり	66-69
16	1952	7 (4)	学式論並に楽曲解剖―反復と変化	48-52
17	1952	7 (5)	わたしの音楽教室	67-69
18	1952	7 (9)	音楽に対する態度の測定	66-74
19	1952	7 (9)	小学6年生 音楽指導9月	95-97
20	1952	7 (10)	学習問題のとらえ方	34-38
21	1953	8 (3)	教材解説 三月の音楽指導 中学一年	105-107
22	1953	8 (4)	特集 音楽学習の最低基準を考える 鑑賞の面から	21-25
23	1953	8 (6)	調査資料を生かす道 三重縣白子小学校	82-89
24	1953	8 (7)	教材解説七月の音楽指導 小学五年	118-119
25	1953	8 (9)	紙上音楽会 学生のための音楽会プラン 中学生のための音楽会	51-54
26	1953	8 (10)	第4回 全国音楽教育者大会議事録	98-107
27	1954	9 (2)	音楽生活への指針として	83-87
28	1954	9 (7)	クラブ活動におけるレコード鑑賞教育とその実際	73-76
29	1954	9 (7)	音楽鑑賞教室	146-149
30	1954	9 (10)	運動会用のレコードの選び方	66-70
31	1954	9 (12)	放課後の断想	101-103
32	1955	10 (3)	<小学校中学年>児童の音楽に対する好悪から	53-不明
33	1955	10 (3)	私が子供に聴かせているレコード	90-不明
34	1955	10 (3)	鑑賞と理解を結びつけて	102-106
35	1955	10 (5)	教材解説 五月の音楽指導 小学六年	150-151
36	1955	10 (6)	作曲法講話	116-119
37	1955	10 (7)	昭和三十年新入生の音楽反応調査を顧みて	117-123
38	1955	10 (7)	NHK 学校放送紹介<七月の巻>アンテナ談義	124-127
39	1955	10 (7)	教材解説 七月音楽指導 小学六年	156-159
40	1955	10 (8)	音楽鑑賞教室	146-149
41	1955	10 (10)	運動会に果す音楽の役割	69-74
42	1956	11 (4)	展望 教育ニュース	10-11
43	1956	11 (5)	学級における器楽指導の展開	32-41
44	1956	11 (6)	全校音楽資料室 6月の指導	114, 116
45	1956	11 (7)	音楽鑑賞指導の實踐	22-29
46	1956	11 (7)	普通授業における鑑賞指導	30-35
47	1956	11 (8)	鑑賞教室 ベートーベンの話	66-67

48	1956	11 (11)	音楽会プログラムの組み方	74-75
49	1956	11 (11)	十一月の指導目標	90-91, 100
50	1957	12 (1)	アンテナ談義	76-77
51	1957	12 (7)	第四学年基礎指導	104-105
52	1957	12 (8)	特集 学校にそろえておきたいレコード ピアノ曲	58-60
53	1957	12 (11)	小学校レコードライブラリーに推薦する EPレコード	81-83
54	1957	12 (12)	歌唱指導におけるリズム学習	90-91
55	1958	13 (3)	昭和32年全国小学校器楽合奏コンクール小学校の部 全国優勝への途	84-89
56	1958	13 (4)	“読者の実践記録” 応募入選論文発表 四つの足場に立って	81-85
57	1958	13 (6)	実践記録 器楽指導の歩み	88-91
58	1958	13 (10)	指導要領改定案に見る 初等音楽教育将来の方向	24-27
59	1958	13 (11)	今月の新譜レコードから	50-51
60	1958	13 (11)	第六学年の音楽授業	104-105
61	1959	14 (1)	低学年の必修鑑賞曲の取扱い	28-29
62	1959	14 (2)	楽しませ、親しませる	31-33
63	1959	14 (3)	新学習指導要領と移行期のカリキュラム 指導目標を確認して	20-23
64	1959	14 (3)	新学習指導要領と移行期のカリキュラム 有機的統合的な立案を	28-31
65	1959	14 (3)	特集 文部省共通教材の解説 小学校鑑賞の部	61-65
66	1959	14 (3)	第6学年の音楽授業	104-105
67	1959	14 (4)	特集 今年度私は問題点をこう解決したい ラジオやテレビを利用する	20-23
68	1959	14 (6)	二つの研究発表会 東京都品川区立旗台小学校	72-74
69	1959	14 (6)	第二学年の音楽指導資料	112-113
70	1959	14 (7)	音楽教育診断 鑑賞 こんな時にはこんな手当を	107
71	1959	14 (8)	書評	100-101
72	1959	14 (10)	座談会 鑑賞教材用レコードをめぐる	62-71
73	1959	14 (11)	今月の新譜レコードから	52
74	1959	14 (11)	音楽教育診断 鑑賞 こんな時にはこんな手当を	111
75	1959	14 (12)	第六回全国音楽教育研究大会に参加して	40-42
76	1960	15 (1)	鑑賞講座 8	93-95
77	1960	15 (2)	より正しい学習評価をめざして	74-81
78	1960	15 (3)	移行措置はどのように行われたか 軌道にのった器楽指導	22-24
79	1960	15 (3)	移行措置はどのように行われたか 短調、六拍子の曲がびったりしない	28-30
80	1960	15 (3)	今月の新譜レコードから	52
81	1960	15 (3)	わが校の全校合奏	66-69
82	1960	15 (3)	第十回鑑賞講座	93-95
83	1960	15 (4)	江戸川区立中小岩小学校研究発表会 レコードを中心とした鑑賞指導のあり方	不明
84	1960	15 (4)	レコードを中心とした鑑賞指導のあり方 学習指導案	72
85	1960	15 (5)	鑑賞 研究主題 現代における児童の音楽嗜好について	18-21
86	1960	15 (6)	低学年における鑑賞との関連 性格と目標を意識すること	22-23
87	1960	15 (9)	特集 音楽鑑賞教育をさぐる わが校におけるねらいと実践	25-29
88	1960	15 (9)	第五回全国小学校音楽教育研究大会研究発表 音楽の生活科への試みとその経過	64-67
89	1960	15 (10)	今月の学校放送 NHK	58-59
90	1960	15 (11)	特集 小学校音楽教育への疑問 鑑賞教材の選択について (二)	26-27
91	1960	15 (11)	キングの小学校音楽科 鑑賞シリーズを聴く	77
92	1961	16 (3)	移行措置はどのように行われたか 音楽教育振興法案を	18-21
93	1961	16 (4)	鑑賞教材の愛好度をみる	32-34
94	1961	16 (4)	鑑賞講座 第23回	94-95
95	1961	16 (6)	今月の学校放送 NHK	58-59
96	1961	16 (9)	特集 特殊教育における音楽教育 望まれる他校との交流	17-19
97	1961	16 (10)	今月の学校放送 NHK	58-59
98	1961	16 (11)	第二学年の音楽指導計画	112-113

99	1962	17(2)	今月の学校放送 NHK	58-59
100	1962	17(3)	今月の学校放送 NHK	58-59
101	1962	17(4)	第二学年の音楽指導計画	124-125
102	1962	17(5)	東京都教育研究員 音楽科研究発表 鑑賞グループ レコードを中心とした系統的な鑑賞指導の事例	23-26
103	1962	17(6)	鑑賞教材用 レコード・ガイド 六月新譜	98-99
104	1962	17(6)	六月の学校放送	102-103
105	1962	17(10)	特集 私の選んだ共通鑑賞教材 第5学年	34-36
106	1962	17(10)	鑑賞教材用 レコード・ガイド 10月新譜	98-99
107	1962	17(10)	第二学年の音楽指導計画	124-125
108	1963	18(2)	音楽の基本要素と統合学習	18-25
109	1963	18(5)	昭和37年度東京都教育研究員研究報告 楽器を利用した創作指導	25-27
110	1963	18(6)	6月の学校放送	100-101
111	1963	18(10)	第二学年の音楽指導事例	120-121
112	1963	18(11)	ジュニアオーケストラ10年のあゆみ 葛原先生との出会い	70-71
113	1963	18(12)	鑑賞教材用 レコード・ガイド 12月新譜	94-95
114	1964	19(2)	鑑賞指導の意義 音楽指導のつまづきと解決へのヒント7	30-31
115	1964	19(2)	第三学年の音楽指導事例	114-115
116	1964	19(4)	レコード案内	74-75
117	1964	19(5)	レコード案内 5月新譜	74-75
118	1964	19(6)	書評	60-61
119	1964	19(6)	小学校における鑑賞教育の方法論(3)	88-91
120	1964	19(9)	9月の学校放送	94-95
121	1964	19(9)	第二学年の音楽指導事例	116-117
122	1964	19(11)	小学校における鑑賞教育の方法論(6)	88-91
123	1964	19(12)	学習領域の中で創造性をいかに伸ばすか 創造性を生み出すために	21-23
124	1965	20(3)	鑑賞指導の定着のために—評価の観点と年間計画への位置づけ—	67-69
125	1965	20(4)	昭和39年度東京都教育研究員研究報告 高学年の鑑賞指導	18-21
126	1965	20(5)	音楽心理学入門(2) メロディーのパターン	88-91
127	1965	20(6)	低学年の効果的な鑑賞指導法	36-39
128	1965	20(7)	レコード案内	78-80
129	1965	20(7)	《やさしい器楽編曲講座》”楽器を生かそう”オルガン編・その1	98-101
130	1965	20(9)	特集 小学校の音楽教育に何を期待するか—中学校側から—	18-19
131	1965	20(9)	余暇利用による器楽指導—音楽の生活化をめざす学級担任の歩み—	42-47
132	1965	20(9)	第二学年の音楽指導事例	124-125
133	1965	20(11)	11月の学校放送	42-43
134	1965	20(11)	レコード案内	67-不明
135	1965	20(11)	低学年の音楽学習における問題点をさぐる その5 楽しい鑑賞を第一に	104-106
136	1966	21(3)	音楽と伝説 第12話 トルコ行進曲<モーツァルト・ベートーベン>	66-68
137	1966	21(3)	第四学年の音楽指導事例	120-121
138	1966	21(4)	昭和40年度東京都教育研究員研究報告 のぞましい音楽教育のあり方について	18-23
139	1966	21(12)	11月の学校放送	44-45
140	1966	21(13)	昭和41年度NHK 全国学校音楽コンクール合奏の部 関東甲信越地方 小学校の部	23
141	1967	22(2)	レコード案内	70-72
142	1967	22(10)	10月の学校放送	46-47
143	1968	23(1)	東六おんがく談義	82-85
144	1968	23(2)	東六おんがく談義	98-101
145	1968	23(7)	小学校学習指導要領(音楽)案	22-33
146	1968	23(8)	特集 小学校学習指導要領(音楽)案 改訂のねらい 「鑑賞」における改訂について	35-39
147	1968	23(8)	東六おんがく談義	78-81
148	1968	23(9)	特集 私の選ぶ小学校鑑賞教材	22-45

149	1968	23(9)	学校レコード・ライブラリーの理想的設計	53-55
150	1968	23(10)	特集 現代っ子は教材に何を求めているか 日本民謡・わらべうたはきらい	28-29
151	1969	24(5)	伊沢富美子先生の器楽指導	41-47
152	1969	24(5)	少年のための音楽史の休日 モーツァルトの少年時代	54-57
153	1969	24(6)	新指導要領による鑑賞指導への構想	85-87
154	1971	26(4)	低学年の指導計画	61-63
155	1971	26(4)	学校レコード・ライブラリーの理想的設計	77-79
156	1971	26(5)	学校レコード・ライブラリーの理想的設計	73-75
157	1971	26(6)	学校レコード・ライブラリーの理想的設計	73-75
158	1971	26(7)	学校レコード・ライブラリーの理想的設計	73-75
159	1973	28(1)	鑑賞指導の実際	94-97
160	1973	28(5)	特集 音楽学習における子どもの可能性 幅広い鑑賞指導のもとに	49-53
161	1973	28(5)	楽壇展望	68-70
162	1973	28(10)	ポピュラー音楽は教材に不適当か	52-55
163	1973	28(10)	第三学年音楽科実践事例	114-115
164	1973	28(12)	連載28 これだけは知っておきたい 名演奏家小事典	78-81
165	1974	29(5)	教材精選の方法	30-33
166	1974	29(8)	主張 子どもに聞きたいものを聞かせたい	22-25
167	1975	30(4)	昭和49年度東京都教育研究員研究報告 小学校 ひとりひとりの鑑賞能力を高める指導の計画と方法はどうか	38-43
168	1975	30(9)	民族と音楽 トルコ1	80-82
169	1975	30(10)	アンケート形式による特集 私の選ぶ鑑賞教材 これだけは聞かせたい5曲	26-43
170	1975	30(11)	第二学年の音楽指導事例	100-101
171	1975	30(12)	第二学年の音楽指導事例	100-101
172	1976	31(7)	第二学年の音楽指導事例	100-101
173	1977	32(4)	児童の意欲を高めるための「素材の教材化」の一考察 —授業の中での編曲のあり方—	36-42
174	1977	32(7)	小学校学習指導要領(音楽)案	98-102
175	1977	32(9)	エンサイクロペディア・切手の楽器 グスラ・コプザ・バンドゥーラ	66-67
176	1977	32(10)	音の絵本 トルコ行進曲 ベートーベン作曲	92-93
177	1977	32(12)	いかになにを 音楽鑑賞教材の選択 9	83-87
178	1978	33(3)	いかになにを 音楽鑑賞教材の選択 12	33-37
179	1978	33(4)	エンサイクロペディア・切手の楽器 ズルナ	80-81
180	1978	33(6)	第二学年音楽科指導事例	104,108-109
181	1978	33(8)	楽しく 自由で 自然に 5 —小学校音楽鑑賞教育の実践—	40-43
182	1978	33(10)	楽しく 自由で 自然に 7 —小学校音楽鑑賞教育の実践—	89-92
183	1979	34(3)	昭和52・53年度文部省教育課程研究指定校研究報告 豊かな表現活動をめざす学習指導法	38-46
184	1979	34(3)	楽しく 自由で 自然に 12 —小学校音楽鑑賞教育の実践—	82-85
185	1979	34(5)	音楽鑑賞を育てる道(2)	86-89
186	1979	34(10)	聴く耳を育てる—低学年の鑑賞	105
187	1980	35(1)	特集 主体的学習を旨とする指導の実践 「ふえはうたう」を視聴して —放送教材の活用	51-53
188	1980	35(3)	音楽鑑賞を育てる道(完)	82-85
189	1981	36(2)	昭和55年度全日本音楽教育研究会全国大会報告 小学校部会 音楽を愛する子どもを育てる	59-63
190	1981	36(5)	特集 聴く意欲を育てる 鑑賞のねらいと方法	38-55
191	1981	36(6)	第三学年の音楽指導事例	106-107
192	1981	36(7)	特集 学習指導と評価 複式学級の利点を生かしたグループ学習	40-43
193	1981	36(12)	トルコ風行進曲の特徴 リズムから「トルコ行進曲」にアプローチ	不明
194	1982	37(6)	生活グループから音楽集団へ —児童相互の試行錯誤からグルーピングを考える—	66-71

195	1983	38 (8)	QUESTION&ANSWER 指導の悩み相談します Q いろいろ聴かせてもいいのでしょうか	90-92
196	1984	39 (1)	ヴィジュアルオーディオ	42-43
197	1984	39 (10)	オーディオ・ヴィジュアル	34-35
198	1985	40 (3)	オーディオ・ヴィジュアル	34-35
199	1987	42 (12)	第2学年 音楽科 授業研究 リズムにのって生き生きと表現できる子	104-107
200	1988	43 (1)	第2学年 音楽科 授業研究 リズムにのって生き生きと表現できる子	100-103
201	1988	43 (2)	第2学年 音楽科 授業研究 リズムにのって生き生きと表現できる子	102-105
202	1988	43 (3)	第2学年 音楽科 授業研究 リズムにのって生き生きと表現できる子	104-107
203	1988	43 (4)	第2学年 音楽科 授業研究 創造的な活動を生かした授業	108-111
204	1988	43 (8)	第2学年 音楽科 授業研究 歌心を育てる音楽学習	104-105
205	1989	44 (1)	連載 合奏をまとめる六音楽会に出場するための15のポイント実践編その1	60-61
206	1989	44 (4)	第2学年 音楽科授業研究	100-103
207	1991	46 (4)	授業を生き生き 第2学年 音楽科指導事例	102-105
208	1991	46 (5)	QUESTION&ANSWER 指導の悩み相談します	94-95
209	1992	47 (4)	授業を生き生き 第2学年 音楽科指導事例	104-106
210	1992	47 (9)	特集 「聴く面白さ」に気づく幅広い音楽体験を通して	44-47
211	1992	47 (9)	教音 ジャーナル MUSIC SCINE NOW	61-62
212	1992	47 (12)	授業を生き生き 第2学年 音楽科指導事例	102-104
213	1993	48 (7)	授業を生き生き 第2学年 音楽科指導事例	98-99
214	1993	48 (11)	特集 教材への関心度を高める授業の工夫	45-50
215	1993	48 (12)	おもしろ音楽授業ゼミナール 「ソフトで変わる授業体」	不明
216	1994	49 (5)	授業を生き生き 第2学年 音楽科指導事例	94-95
217	1994	49 (6)	特集 つくって表現する学習 年間指導計画と題材設定のポイント	36-41
218	1995	50 (6)	授業レヴェルアップ講座 創造的「鑑賞」指導のポイント 低学年編	80-81
219	1995	50 (7)	授業を生き生き 第2学年 音楽科指導事例	98-99
220	1995	50 (11)	授業レヴェルアップ講座 創造的「鑑賞」指導のポイント 中学年編	80-81
221	1996	51 (3)	シュタイナー学校の体験	64-65
222	1996	51 (6)	授業レヴェルアップ講座 楽しく聴こう 鑑賞の授業を面白くする雑学BOX	78-89
223	1997	52 (9)	評価の先にあるもの—成長し続ける人間を願って	44-47
224	1998	53 (3)	授業を生き生き 第4学年 音楽科指導事例	92-93
225	1998	53 (5)	授業を生き生き 第3学年 音楽科指導事例	92-93
226	2000	55 (10)	AUDIO VISUAL	50
227	2001	56 (3)	授業を生き生き 第2学年 音楽科指導事例	90-91
228	2001	56 (4)	青風徒然草 第52段 歌劇に於ける異国趣味	62-63
229	2002	57 (10)	授業を生き生き 第2学年 音楽科指導事例	86-87
230	2002	57 (12)	鍵盤ハーモニカ教材考	48-50
231	2005	60 (7)	ワタシ×音楽×教室	26-29
232	2006	61 (1)	TOPICS	22
233	2006	61 (5)	TOPICS	22
234	2006	61 (11)	授業を生き生き 第2学年 音楽科指導事例	70-71
235	2007	62 (5)	へ～そ～なの！音楽のしかけ 新しい鑑賞教育のアイデア	60-61
236	2009	64 (2)	授業にそのまま活用！学習プリント 第23回リズムにのって	50-51
237	2009	64 (3)	授業を生き生き 第2学年 音楽科指導事例	72-73
238	2009	64 (4)	授業を生き生き 第3学年 音楽科指導事例	70-71
239	2009	64 (6)	TOPICS	20
240	2009	64 (12)	特集 音楽の仕組み再発見！わくわく鑑賞指導	30-33
241	2009	64 (12)	特集 音楽の仕組み再発見！わくわく鑑賞指導	36-37
242	2010	65 (1)	授業を生き生き 第5学年 音楽科指導事例	66-67
243	2010	65 (2)	あっとおどろくわははな授業！！	56-57
244	2011	66 (8)	特集 6年間のわくわくリズム指導	30-35

表5 トルコへの言及記事一覧

記事番号	記述
2	トルコ兵の行進用として如何にもトルコ風に作られて居る (p.44)
5	1809年、ウィーンの假寓で、ナポレオン軍の砲聲を耳にしながら、ふと「二長調変奏曲」の一主題を考えついたが、それが抑もこの曲の始まりで、1811年、ハンガリーの詩人コチェビュールが、自作の戯曲「アテネの廢墟」に作曲を依頼して来た時、彼はトルコ人の行進に用いたこのある変奏曲の主題を改めてトルコ風に編曲し、トルコ兵がアテネを占拠する意気に合わせたもので、旋律がトルコ風であるというのではない。(p.100)
9	「トルコ風」というのは、トルコの軍楽隊を指す。ヨーロッパでは、トルコ戦争の頃からトルコの異国趣味が喜ばれ、その音楽、特に軍楽隊が好奇心をそそって、バレエやオペラなどで盛んに真似られた。その軍楽隊は、西洋のものとは違って、東洋風に原色的で、騒々しいものである。打楽器を多く使う他に「中国の帽子」とか「三日月」とかについて洋傘の骨に鈴をつけたような特別の楽器も用いてジャラン・ジャランと景気よく一むしろ騒々しく一響いたものである。西洋の人は、これを真似て色々な「トルコ曲」を作った。(p.89)
47	この曲は、ある劇の中で、トルコの兵隊たちが行進して来るところで演奏するために、作曲したのです。それでトルコ行進曲という名前がついたのです。それでは一度聞いてみましょう。これが、トルコ行進曲です。トルコの兵隊が行進していくところの音楽ですから、なかなか勇ましい気持ちになりますね。皆さんもきっとそう思ったでしょう。(p.67)
65	トルコの兵隊が行進しているところを想像させるような話し合いをする。(p.62)
76	曲名を提示し、トルコの兵隊さんが行進して来るところであることを説明をした方がよい。(p.95)
83	教材の「トルコ行進曲」をきいてリズム打ちをしたり、トルコの兵隊になったつもりでこうしんだり。(p.不明)
119	トルコ行進曲が派手なトルコの軍楽隊から出ていることは、トルコも軍楽隊も連想できない8、9歳の児童に説明しても鑑賞のたしにはならない。(p.91)
121	トルコ行進曲という曲の起りかは、18世紀頃トルコの国王がヨーロッパへ旅行するたびに軍楽隊をひきつれ、楽隊員が鐘や太鼓で囃しながら行進したのが、そのはじめといわれている。(p.116)
127	トルコ帝国の親衛軍楽隊が、王がヨーロッパを旅行するたびに、ドラム、シンバル、トライアングルなどの打楽器を使って、にぎやかに行進した。ヨーロッパではトルコ親衛軍楽隊の行進がよほどおもしろう感じられていたらしい。(p.38)
136	トルコ音楽の特徴は、かん高い、音のするどい笛を主に用い、金属製の打楽器や太鼓などをよけい使うケバケバしい音楽である。そういった刺激の強いところが、パリやヨーロッパ人たちの興味をそそったのであろう。(p.66) 第四曲目に、有名なトルコ行進曲がきこえてくる。トルコの兵士たちが、この勇ましい景気のような行進曲を奏でながら、舞台の上に進軍してくる。はじめは遠くから、弱く (pp) だんだん近づくにつれて大きく (クレシェンド、ff)、そしてまただんだん弱くなって通りすぎていく。これは単なるエピソードとしての音楽だが、全曲の中では、もちろん一番きかせどころである。(p.67)
168	16世紀以降、オスマン・トルコがアナトリア (小アジア) から勢力を強め、その帝国をスペインまで拡大していた当時、ヨーロッパ社会で恐怖と畏敬をこめて見られたのが、トルコの軍隊とそれに伴う軍楽隊であった。東欧諸国をはじめ当時のヨーロッパ社会で、耳もとどろかすばかりに強烈に響いたその軍楽は、味方のトルコ軍を鼓舞する一方、どれほど敵を混乱させ戦闘意欲を弱めたことであろうか。少なくともその効果が圧倒的であったことは、その後のヨーロッパ音楽の中で流行したトルコ行進曲や、ブラスバンドの発展の中にもみることができる。(p.82)
171	発展的に有機的に発展される教材として「トルコ行進曲」を例に挙げ、図示している。その中に、「国、地域、民族との関わり合い、日本と外国」という項目があり、具体例はないが、「トルコ行進曲」が民族の音楽を紹介する教材としての可能性を示している。(p.100)

175	<p>すでに14世紀からこの地に支配の手を伸ばしはじめていたトルコは、1453年、ついにコンスタンチノーブルを陥し、同世紀の末にはほぼバルカン全域を制覇し、最盛時にはウクライナをも侵し、ハンガリー軍を破って、再三にわたりウィーン攻撃までを行った。その時のズルナ zurna とタパン tapan を中心としたトルコ軍楽隊の音楽が”トルコ行進曲”として名を留めているわけである。(p.67)</p>
176	<p>むかしトルコの王様が、ヨーロッパの国々に出かけて行くときは、いつも軍隊を連れ、笛やたいこを演奏させながら、にぎやかに行列を進めていた。その行列は、上級生が交通安全や運動会で見せてくれるパレードのような…と話してやる。(p.92)</p>
179	<p>トルコの軍楽隊メフテルを手本として、西ヨーロッパで本格的な軍楽隊が最初に組織されたのは、17世紀中期、フランス国王が作曲家のリュリに命じて創設させたものとされる。18世紀には各国の軍隊におかれるようになるとともに、先輩格にあたるトルコ風のマーチが大いに流行するようになった。モーツァルトも、ベートーベンもその時流にのって、「トルコ行進曲」をその作品の一部にとり入れたのだった。(p.81)</p>
182	<p>その一つとしてこれから有名な「トルコ行進曲」をとりあげてみましょう。「トルコの兵隊がきれいな軍服を着て、遠くから行列をして進んでくる。そして皆の前を通過して、また遠くへ去ってゆく。そうした行進を立ってみているところの音楽だから、同じ行進曲でも一年生のときに聞いた『おもちゃの兵隊』の行進とは違って、いっしょに歩くのではなくて、じっと立って見ているように、耳をぴんとさせて聞かなくてはいけない。そこで皆がその行列が行進してきて目の前を通過してまた去ってゆくさまを思い浮かべるのだよ」と伝えて、「さあ目をつぶって」といって目を閉じさせて聞くようにさせます。(p.91)</p>
193	<p>トルコの軍楽も、ハイドン、ベートーベンの「トルコ行進曲」のようにそのようなリズムが終始一貫して反復されるのが、きわだった特徴の一つである。この特徴をふまえて構想の内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) «トルコ行進曲» (ベートーヴェン)、«旧友» (タイケ)、«トルコ行進曲»の3曲を聴き比べ、同じ仲間の行進曲と違う仲間の行進曲に分ける。 2) 「トルコの軍楽」を聴かせ、太鼓の伴奏が似ているものは前出の3曲のうちどれかを判別する。この段階で、トルコの写真などを見せ、トルコの行進曲であることを知らせ、軍楽に合わせてリズム打ちをさせる。次に、今のリズム打に前出の3曲のどの曲が合うか判別させる。 3) 同名の«トルコ行進曲»を、リズム打ちしながら聴く。(ベートーヴェン、ハイドン、モーツァルト)
222	<p>とはいうものの、根性だけでは体はもたない。そこで賢いトルコの皇帝は考えた。そして、思わず脚が動いてしまうような、強引で派手な音楽を、専用の楽隊に演奏させることにしました。これが有名なトルコの軍楽隊なんです。どんなものだったかといえば……まず先頭に行くのは、馬にまたがった打楽器奏者。鍋の形をした太鼓、大太鼓、シンバル、トライアングル、などなど。三日月型の飾りにベルや鈴をぶら下げた棒があるけど、これも「クレセント」というジャラジャラ鳴る打楽器なんだね。その後ろに、オーボエやら、トランペットやら、横笛やらが列をなす。遠くまで音が通る管楽器ばかり。プロ野球やJリーグの応援団みたいで、想像しただけでも、ものすごくうるさそうだなあ。(p.79)</p>
228	<p>トルコは、最も近いアジアということもあり、古典派になると音楽作品に数多く登場するようになる。古典派の三大巨匠はことごとく「トルコ風」行進曲を作曲しており、ハイドンはオペラ「薬剤師」(1968)に、モーツァルトはまず「後宮よりの逃走」(1782)に、ピッコロ・オーボエ・シンバル・大太鼓・トライアングルといった異国情調の楽器を用いて書く。ベートーヴェンは劇音楽「アテネの廃墟」(1811)では、トルコ軍が目前を通り過ぎる一部始終を表現する。モーツァルトはやがてソナタK.V.331で終楽章に、前述したオーケストラの楽器を彷彿とさせるトルコ行進曲を置き(中略)ベートーヴェンの第九交響曲のテノール独唱から始まる行進曲も、トライアングルが使われていることから、トルコ音楽と言えるだろう。(p.63)</p>